

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2016年10月24日発行 No.18

「感謝の献げ物をささげて主に歌え。豎琴に合わせてわたしたちの神にほめ歌をうたえ。主は馬の勇ましさを喜ばれるのでもなく人の足の速さを望まれるのでもない。主が望まれるのは主を畏れる人主の慈しみを待ち望む人。」

(旧約聖書 詩編 第147編 7~8、10~11節)

<チャペルに響く美しい旋律にウットリ…。弓張美季さんのピアノコンサートが開催!!>

先週の土曜日22日は、KIUのチャペルが満員となりました!! なぜか…? それは、ピアニスト弓張美季さんをお迎えしてピアノコンサートが行われたからです!! 神戸に生まれ、幼少から欧米で才能を培われてきた弓張さん。欧米の有名な音楽院で学ばれ数々のコンクールで入賞を果たすと、ドイツ、イギリス、アメリカ、ロシア、オーストリアなどで演奏を披露、現在は活動拠点をドイツのベルリンに据えて、目覚ましい活躍を続けておられます。この日は、アンコールも含めて約2時間の演奏時間があったという間に感じられるほど芸術的、また大迫力の演奏を披露して下さい、満員のチャペルに集った参加者はその魅力的な旋律に酔いしれていました!!



休日でもチャペルは超満員!!



演奏会の趣旨を説明する下村学長



使われるピアノも超一流!!



演奏開始と同時に引き込まれる聴衆



演奏を称える拍手が止まらない!!



弓張さんとスタッフで記念撮影!!

今回のコンサートは、神戸国際大学の建学の精神である「仕える」をキーワードに、熊本地震被災者支援チャリティコンサートして開催され、ホールでは写真展示や支援献金も募られました。発生から半年以上が過ぎてもなお様々な苦しみ抱えておられる一人ひとりに癒しと力が与えられ、一日も早く復興がなされる事を心からお祈りしています。

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

10月17日(月) 前田 次郎(理事長)

テーマ:「正直が一番」

旧約聖書には有名な「バベルの塔」の話がある。当時の技術の粋を集めて建てられた高い塔。しかしそれは神の目に危険と傲慢としか映らなかった。結果、言葉を乱されて混乱する愚かな人間の姿が描かれているが、これは今日の原発問題とそのまま重なるように思える。聖書の中の「罪」とは、やってしまった結果を表わす言葉ではなく、「的の外れた人間の行為」そのものを表す言葉だ。「神を畏れる事は知恵の初め、無知な者は知恵をも侮る。」という有名な聖句が語るように、自分の中で正しさを感じ、それに従っていく生き方が求められる。それを聖書から学び取りたい。

10月11日(火) この日は音楽礼拝でした。メディテーションとしてオルガニストの伊藤純子先生の演奏する「G線上のアリア」に皆で耳と心を傾けました。

10月12日(水) 小林 俊博(リハビリテーション学部)

テーマ:「広島カープ論」

広島カープが25年ぶりにリーグ優勝を果たした。カープは、地道にコツコツ努力を積み重ねる事を球団運営方針としており、初優勝したのは1975年、この時もセントラルリーグが発足して25年目だった。以降、6度の優勝を果たしたが、その度にルール改正が行われ、地方の小規模球団は、選手の引き抜きなどの問題を抱えるようになった。それでもカープはお金で強い選手を集め、楽をして勝とうとする姿勢に流されることなく、努力を積み重ね、選手の育成を第一にしながら今日を迎えている。週末から開幕する日本シリーズでは、同じ方針を掲げる日本ハムファイターズと戦う事になるが、どちらが日本一になるのだろうか? 楽しみだ。

10月13日(木) 武政 誠一(リハビリテーション学部) テーマ:「人との^{めぐりあわせ}出会い、そして生かされる」

色々な人との出会いによって人生は素晴らしいものになる。私は、自分の人生を振り返る時、かけがえのない2つの出会いによって導かれたように感じている。一つは、学生時代に大学病院で出会った先生。丁寧な論文指導によって学びを深め、様々なスポーツを通して視野を広げられたように思う。もう一人は島田智明先生。アメリカでの学会発表準備やこの大学に誘って頂いた事も今の自分に大きく繋がっている。「人間」は「人の間」と書くが、その「間」とは、関係性を表す。その一人との出会いが、人生を大きく変える事があるとすれば、この世界に無駄な出会いなど存在しない。与えられた日々のお出合いを大切にしていこう。

10月14日(金) 中原 康貴(チャプレン)

テーマ:「無料(ただ)で配られたお金」

私たちは多くのものに恵まれていながら、それを当たり前のことと考え、それらが特別な恵みであるということをすぐに忘れてしまう。しかし、私たちの命も、健康も、財産も、すべて「在って当然のもの」ではない。私たちは神様の恵みによって生かされ、神様からの恵みとして、健康も病も与えられ、この世界をより良きものとするために、何らかの財産や才能を与えられているのだ。神様は私たちが感謝することを忘れても、多くの恵みを常に与えくださる。しかし、「すでに多くのものを与えられている」ということに気づかなければ、私たちは不平不満に満たされた人生を送ることになってしまう。私たちは今、すでに神様から多くの愛と恵みを受け取っている。そのことをしっかりと受け止め、不平不満ではなく、命の喜びと感謝をもって一日一日を過ごそう。

(文責:野間 光顕)